

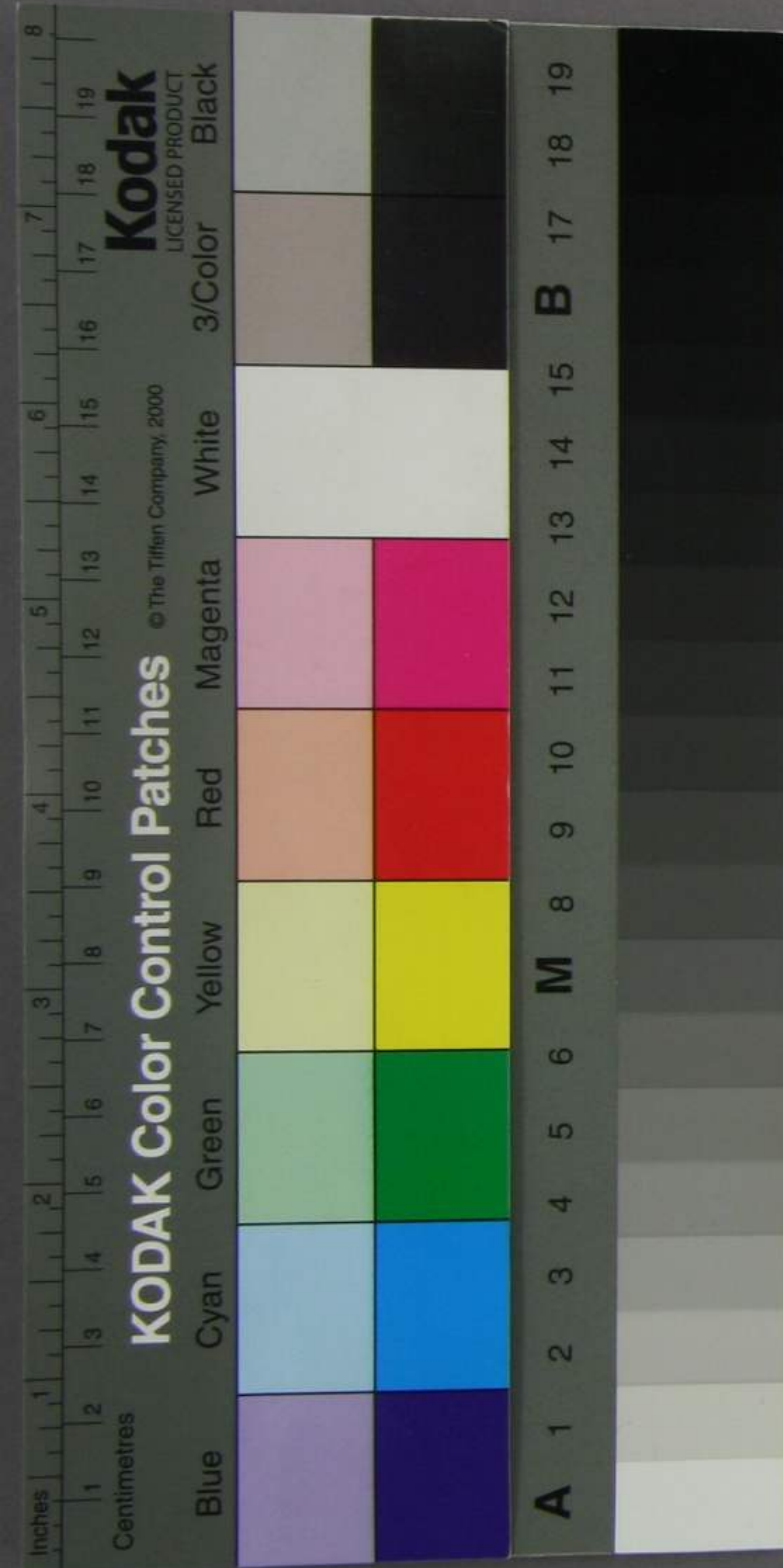
114
A2878



山陽鉄道特別補助金下付の義行稟請
 當山陽鉄道會社、株主共、元明治十九年一月以テ
 換津、神戸ヨリ播磨ノ姫路ニ至ル三十餘哩ノ
 鉄道而後ヲ計畫シ其旨政府へ出願シ之を扶
 意報スリ許容セラレシメテ結局神戸姫路間ノ
 線路ヲ延長シ岡山廣島ヲ往テ亦岡山ニ達
 スル幹線ヲ相当ノ年限内ニ布設竣切タル
 責任ヲ負ハ格スルニアラカシク神戸姫路間ノ鉄道
 布設ヲモ許可セラレザルベク或ハ工事着手後

大正十一年四月
陸軍省
陸軍部
陸軍省

2636



姫路以西赤島間ニテノ全線ヲ完成スルニ
場合ニ於テハ實際ニ補ヒスル資本金ニ年息
・利子ヲ付スル舞道一切ヲ奪ゲテ政府へ買上
ゲ若シクハ他ノ大倉社へ合併セシムベシト
旨指
合フ蒙リヌリ依テ株主共ハ右師指令ノ趣
認テ所請依リ五ヶニ神戸赤島間ノ線
路ヲ完測シ工事ノ計畫ヲ立テ布設竣功
年限等ノ取調ヲ了スル候上明治二十
十月更ラニ山陽鉄道會社ヲ設立シ神戸
赤島間ニ舞道ヲ布設スル事ヲ允テ
スルニ

明治二十一年一月ヲ以テ願ハシ免許
狀所付有ル神戸赤島間ノ三百餘哩ノ
舞道ヲ向フ九箇年內ニ布設竣功セシム
ベキ旨命令セラレタル次才ニ所定
爾後當會社ニ於テハ大ニ資本金ヲ募集シ
布設工事ヲ急ギ遂ニ明治二十一年十二月ヲ以テ
姫路マデノ線路ヲ開通シ得ヌリト雖モ以西
ノ線路ハ資本金募集上頗ル困難ヲ感
スルニ工事ノ進歩捗マセカラス或ル部分ハ
既ニ工事ニ着手シ近キ一竣功ヲ期スルモノ

モアリト推モ今日に至ルマデ一箇所トシテ未だ開
通ノ事ビク至ラザルハ遺憾此工ナキ事ニ奉存ス
若シ今ノ候ニシテ在再經過ニ新タニ大ニ
分社全體ノ元氣ヲ養フノ工月ヲ為サザル
ニ於テハ姫路最富當時既ニ設計ノ確定
シアル備前備中地方ノ工事ノ進歩スル尚不
甚ダ覺束ナク況ニテ安藝周防長門地方
ノ布設工事ニ於テヤ速モ命令ノ年限内
ニ竣功ニ得ベカラザルハ勿論其延工ノ期日
ヲサハ豫定モシテハガル程ノ次才ニ所産ス

斯ル困難ノ場合ニ至リルモ畢竟見ル所
實ニ至急募集ノ意ノ如クナラザルニ在リ而シテ
此不如意ハ軌道布設工事中實際其建築
費ニ仕拂ヒタル資中全額ニ對シ相當ノ利
益ヲ配当スルハ此ハガレニ從因スルモノニシテ仮
令ハ全線開通ノ後營業収益ノ全額ト分り
トスルモ目前ハ九箇年ノ間ハ莫大ノ資本金
ヲ集初更同様ノ地ニ放擲シ置カザルヲ得ザ
ル有様ナルガ反ニ尋常ノ株五ニシテ此困難
ニ應ズルハ此ハ不株金拂込ノ鬼角ニ永ク

延滞ニテ會社ノ業務意ノ如クナラザルハ誠ニ
是非モテキカオト奉存候

山陽鐵道ハ地形上頗ル重要ノ地位ニテ
東ハ東海道鐵道ニ聯絡シ西ハ九州鐵道
ニ接シ我帝國ノ氣脈ヲ東西ニ通スル最要路
ノ一ニ有之最近政府ガ神戸姫路間鐵道
布設ノ議決ニ對シテ赤島閣マデ延長ノ命令
ヲ下タカレタルモ蓋シ此意ノ外ナラズト奉存候
然ルニ今ヤ東京神戸間ハ官設鐵道既ニ
成リ東京仙台間ハ政府ノ厚キ保護ニ賴

リテ日本鐵道會社ノ線路既ニ開通ニ仙台
以北青森マデハ開通ノ期數月ノ内ニ在ベク
北海道ノ如キスラ近日又鐵道ノ起テトモ
アリ而シテ九州地方ニ於テハ政府ノ特別補助
ニ賴リテ九州鐵道ノ工事日ヲ追テ進守ニ
赤島閣ノ對岸門司ヨリ博多ヲ經テ長崎
ニ至ルモノモ成功ヲ告グルノ日近キニ在リ斯
ル時機ニ際シ此間ニ介在スル山陽鐵道ニ
モテ工事獨リ迅速ナラズ永ク全國氣脈ノ
貫通ヲ阻碍セシトスルノ實蹟アルハ誠ニ痛

款、至ニシテ國家ノ大計上甚ダ憂慮ス
ベキ義ト奉存也

右ノ次才ニ付卅際特別而保護、御速意
ヲ以テ山陽野道姫路以西、線路ニ限り自今
工事落成、上其課敷ニ對シテ哩ニ存念ニ有
ノ別台ヲ以テ特別補助金ヲ拂下付被成下
リ様任分此補助金ヲ賜リ候ハハ株主
モ安堵シテ資力中至ヲ集ムルヲ得ベク隨テ
各所トモ工事速成命令、期限内ニ誓テ
神戸赤島間全線、竣功ヲ期シ得可申

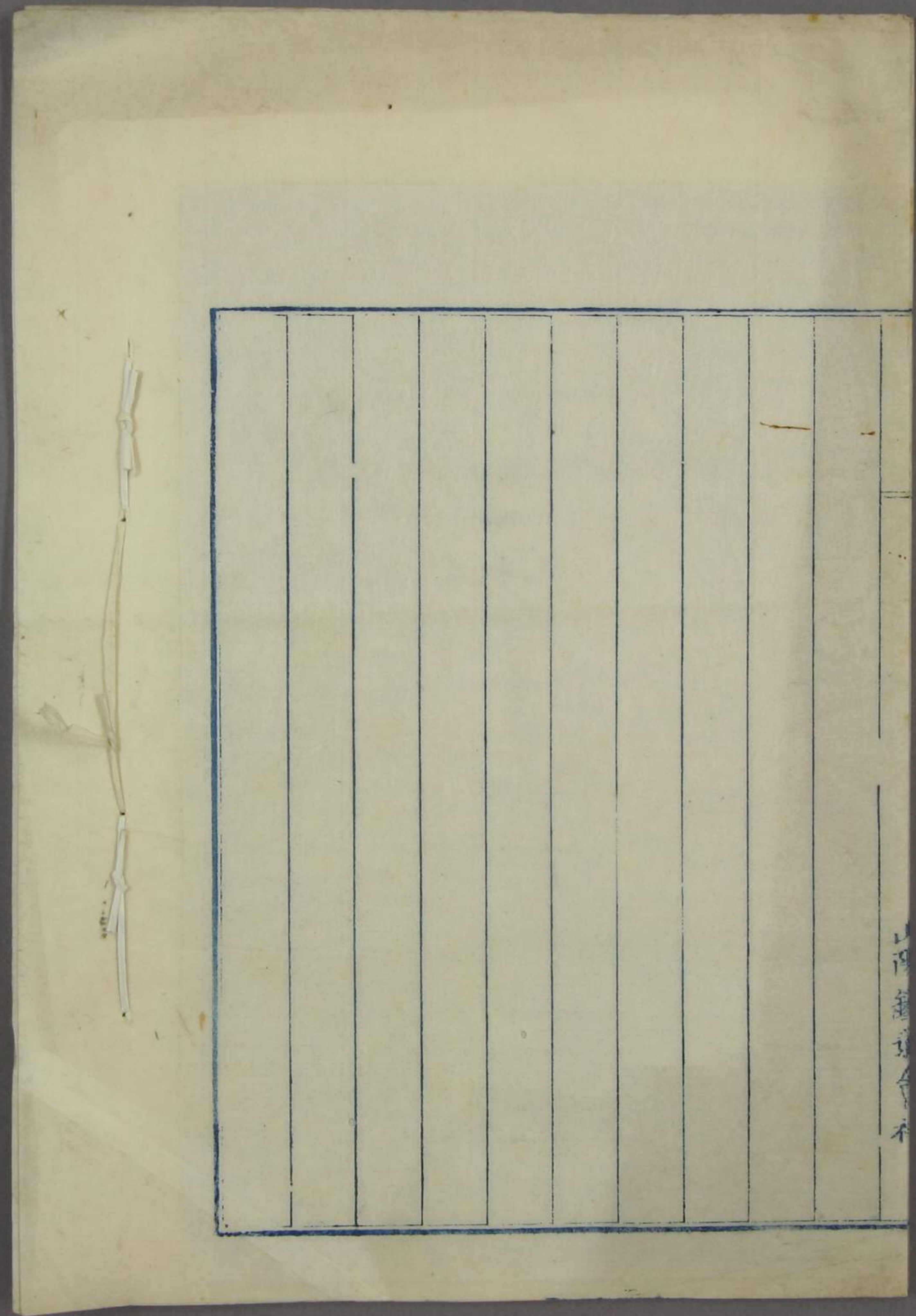
奉存此等何卒特別ノ旨注儀ヲ以テ前記
落成線路哩數ニ對シテ補助金拂下付
ノ并急速御聽許被成下大原仕度此後
當不後儀也

明治二十二年十月七日

山陽鉄道會社社長

中上川亮次郎

内閣總理大臣西園寺公望謹啟



山陽縣志卷之六